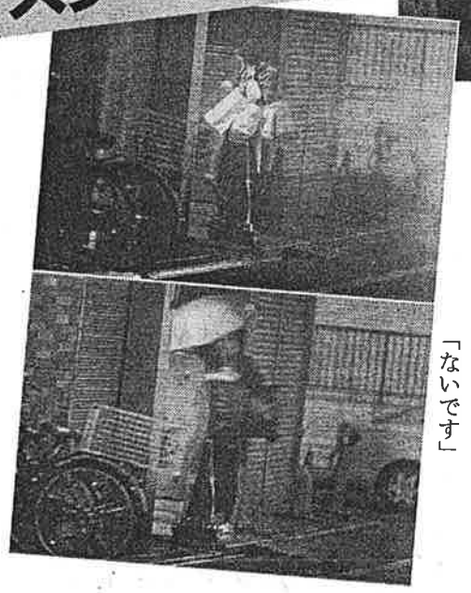
「笑っていいとも!」新レギュラー

AKB秋元才加 56歳オヤジと「自宅お泊まりデート」撮った!

スクープ・ショット!

秋元のマンションから出てきた広井王子氏



秋元が帰宅すると(上)、ほどなく広井氏が(下)

カーラーを巻いたまま出勤する秋元

テレビや雑誌グラビアで、目にしない日はないと言っても過言ではないAKB48。にもかかわらず、一向にメンバーの顔と名前が一致しないこと、そして小誌以外の週刊誌がスキャンダルを報じないことが、いまや〝ギョーカイ七不思議〟の一つに数えられている。

今回、小誌AKB取材班が追ったのは、チームKリーダーの秋元才加(さやか)(22)。今月から『笑っていいとも!』の月曜レギュラーに抜擢されたのだが、実は以前から「三十歳以上も年上のギョーカイ人と交際している」との情報が小誌に寄せられていたのだ。

十月九日、出演する舞台公演を終えた秋元は、午後九時、舞台裏からタクシーに乗り込んだ。途中でマネージャーと見られる男性を降ろし、都内の自宅マンションに到着。両手に一杯の紙袋を下げ、ケータイをかけながら玄関に入った。

ほぼ同時刻、車で五分ほどの距離にあるマンションから、くわえタバコで出てきた中年男性がタクシーに乗り込んだ。周囲を警戒しながら向かった先は、秋元のマンションだ。エレベーターは彼女の部屋の階で止まり、二人は翌朝まで外に出てこなかった――。

男の名は、広井王子氏(56)。大ヒットしたゲーム『天外魔境』や『サクラ大戦』のクリエイターとして知られ、最近はAKBメンバーが出演する舞台の演出や脚本も手がけている。

二人のなれそめを紹介する前に、秋元のプロフィールに触れておこう。身長百六十六センチのモデル体型。〇六年に二期生としてAKB入りした。

「フィリピン人の母親をもつ影響か、顔だちがハッキリしていて、テレビ映えがいい。今年の総選挙では前回の十二位から十七位に順位を下げたものの、なんとか選抜メンバー入り。ハキハキしてトークが上手く、スタッフからの受けはピカイチです」(番組関係者)

中学時代から芸能界に憧れていたようだ。

地元千葉の同級生が語る。

「当時から背が高くて、バスケ部では即レギュラーでした。よく帰り道で元(はじめ)ちとせの歌を口ずさんでいました。高校のころまで同い年のカレと付き合っていたのですが、AKBに入ると同時に別れてしまったんです。お父さんがあまり仕事をしていないようで、高校に入ってからはお母さんが勤める飲食店の手伝いもしていました」

そんな秋元が広井氏と知り合ったのは、昨年夏のことだったという。

舞台やラジオで秋元を起用

その後、広井氏が脚本を手がける舞台『ミンキーモモ』で、秋元が再び出演。広井氏はブログで彼女を大絶賛していた。

〈秋元才加くんが本日より本格的に稽古に加わる。(略)どんな輝きを見せてくれるか楽しみだ〉〈すべてをぶち壊す役、ナイトメアーの秋元才加(AKB48)くんの存在感がバツグン。圧倒的だ〉

「広井氏が手がける作品には秋元が度々キャスティングされています。彼のプロデュースで十月から始まったラジオ番組にも秋元が出演しています。なんでも才能を感じての起用とのことですが……」(同前)

芸能界では仕事の付き合いから親密交際へ、というパターンも珍しくはないが、さすがに三十四という歳の差にはビックリ。

事務所関係者は次のように解説する。

「秋元が主演の『AKB歌劇団』の舞台演出を広井氏が担当してからです。当時、事務所サイドから『舞台での歌は口パクでやらせてほしい』と相談されて、広井氏が激怒した話は、ファンの間でも有名です。しかし舞台終了後、掃除を進んでやる秋元に広井氏は感動し、好意をもっていったようです。舞台後の打ち上げなどで、二人で親しげにしている姿が目撃されています」(舞台関係者)

「さやかは、お父さんが比較的高齢になってから生まれたこともあって、ファザコン気質なんです。食事会でも男性へのスキンシップが多いし、自分から『わたしオヤジ好きなんです』と言っているくらいですからね。甘えん坊の彼女は、忙しくても恋愛してないとダメなタイプなんです」

かつては、広井氏の高級マンションに秋元が出入りする姿も目撃されていた。

「今年の夏ごろまで、頻繁に通っていたようで、関係者の中でも噂になっていました。事務所の幹部たちは、年齢差から『まさか』と思っていたようですけど。大島優子とウエンツの熱愛報道もあって、事務所側から注意したはずなんですが」(同前)

今度は、広井氏のほうが秋元の部屋に通っているというわけだ。

ところが、秋元は2LDKのマンションに同期生一人と同居しているのだ。

冒頭に続く、九~十日朝までの模様を紹介しよう。

広井氏がマンションに入ってから、窓際にイベントの写真入りIDパスが飾られた秋元の部屋の灯りが消えたのは、午前二時半。照明が薄赤いダウンライトに切り替わり、完全に暗くなったのは朝の五時過ぎだった。

「彼女の家に行ったのは一回だけ」

帰宅してきた秋元本人を直撃した。

――広井氏と交際していますよね。

「ないです」

――広井氏がマンションに来たことは?

「ないです」

同居するメンバーは朝六時に家を出て、秋元が姿を見せたのは九時過ぎ。誰もいないはずの部屋の明かりは点いたままだ。

すると、一時間半ほどして出てきたのは、広井氏だったのだ。また、七~八日にかけての深夜にも、彼が秋元のマンションに入る姿を小誌は目撃している。

――お互いの自宅を行き来しているようですが?

「ないです」

――広井氏との面識は?

「面識はあります(笑)」

広井氏はこう回答した。

「ここ最近で彼女の家に行ったのは七日深夜の一回だけ。芝居の話をして翌朝六時ごろに帰りました。彼女が私の家に来たこともありますが、そんな関係ではありません。私には彼女と同年代の娘もいるんですよ」

ちなみに広井氏はバツイチ。二人の釈明がずいぶんと食い違っているが、〝真実〟はカメラがきっちり捉えていたのである。